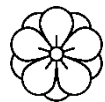


「児童理解と合理的配慮のために」

# 発音の誤り

— 特殊な誤り編 —



青梅市立河辺小学校  
ことばときこえの教室

東京都青梅市河辺町5-24  
0428-22-2103

WEB



## ○発音の誤りってどんなこ

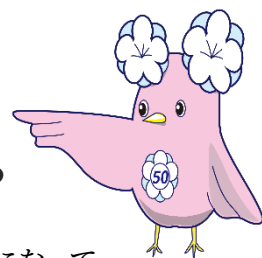
ことばの教室に通う児童に見られる発音の誤りは、大きく分けて二つあります。

未熟な誤り：口周りの器官が未発達で、正しい音を身に付けられていない。

特殊な癖がついた誤り：特殊な舌の使い方を身に付けたために、正しい音が出せない。

未熟な誤りと混在することもありますので、必要に応じて「未熟な音編」もご覧ください。

→ 今回は、「特殊な癖がついた誤り」について扱います。



## ○特殊な癖がついた発音の誤りってどんなこと？

舌に特殊な癖がついた状態で、日本語の音では表し難い、何とも言えない音になってしまう誤りを言います。中でもことばの教室に通う児童に多いのは、以下の三つです。自然治癒することは少なく、会話で正しい音を発音できるようになるまでには、時間がかかる傾向にあります。改善までには、長い目で見てコツコツと練習していくことが大切です。

★舌に力が入り、舌の中央でなく横から息が漏れることで、くぐもった音になる。

### 側音化構音(そくおんかこうおん)

ちくわ → きくわ  
さかな → ひゃかな

イ列音、サ行音、ケ音、ツ音などに多く見られます。  
唾液が溜まったような音。

★舌に力が入り、舌先で出す音を舌の中央部で出すことで、こもった音になる。

### 口蓋化構音(こうがいかがこうおん)

たいこ → たいこ  
さかな → ひゃかな

サ行音、タ行音、ナ行音などに多く見られます。  
奥にこもったような音。

★口が舌で塞がれ、息が鼻から出ること、鼻にかかったような音になる。

### 鼻咽腔構音(びいんくうこうおん)

たいこ → たんこ

イ列音、ウ列音、サ行音などに多く見られます。鼻をつまむと発音できなくなります。

中には、「鼻咽腔閉鎖不全」と言って、鼻に息が抜ける道を閉鎖できずに、鼻に息が漏れてしまう児童もいます。言語指導のみでは改善しないこともあり、医療機関のご紹介もさせていただいています。

## ○特殊な誤りになってしまう原因は？

★体の動きや口周りの動きが不器用で、思い通りに動かすことが難しい。

上記のような特殊な癖は、舌に余計な力が入っていることが多いです。指導では、まず舌を平らに脱力する練習からスタートしますが、舌の癖が付いている場合、平らな舌を維持すること自体がとても苦手な場合があります。私たちは、舌や口の細かい操作で発音し、それを音ごとに瞬時に変化させて話しています。簡単なようですが、少し位置がずれただけでも違う子音になってしまう微細な運動です。手先が不器用なことと同じように、口周りを動かすことに不器用さが見られる児童がいます。また、微細運動と粗大運動は繋がっているため、体全体の動きが苦手な児童は、細かい動きも苦手になりがちです。

★耳で自分の発した音を聞いたり、音のイメージを捉えたりすることが苦手。

人間が話すときは、無意識に自分の発した音を自分で聞いて、調節しています。聞く力や、音のイメージを捉える力に苦手さがあると、自分が発した音が正しい音なのか、苦手な音なのかの判別が難しく、発音の改善に時間がかかることがあります。

## ○どんなことで困るの？

- ・ 話した相手に正しく伝わらなかったり、何度も聞き返されたりする
- ・ 発音の誤りを指摘されたり、からかわれたりして嫌な思いをする
- ・ 発音の誤りを自覚し、発表に不安を感じたり、話すことを控えたりするようになる
- ・ 自分の発音の誤りに影響され、文字の表記にも書き誤りが出る場合がある
- ・ 練習をしても改善しづらく、練習場面では正しく出せるようになっても、会話場面で定着するまでにはとても時間がかかることがある。



## ○先生にお願いしたいこと

安心して話せるような環境作りが大切です。発音の練習は通級に任せていただいて、気持ちよく過ごせるような環境作りにご協力ください。

### ★発音の誤りについては指摘せず、内容について評価する。

正しい発音方法を学習して身に付けるまでは、自分でいくら気を付けても、正しい発音はできません。その状態で無理に正しい音を言わせようとしても、かえって改善しづらい発音を身に付けることにつながります。発音の誤りについては指摘せず、気持ちよく過ごせるよう見守ってください。また、音読や発表では、発音の誤りによって伝わりづらくなるがありますが、ぜひ発表の内容や頑張った態度を評価していただき、発音の誤りを評価対象とすることは無いようにしてください。

### ★自然と正しく復唱し、正しい音を耳から聞かせるようにする。

指摘はしませんが、正しい音を耳から聞くという経験は、発音の改善に大変有効です。例えば、力行がタ行に置き換わる児童が、「動物園でチ(キ)リンみたの！」と話していた場合、「わあ！キリンを見たの？すごいね！」などと、誤った言葉をさりげなく正しい音で復唱して聞かせることが大切です。

### ★周囲がからかったり、指摘したりしない環境を作る。

発音のみならず、日頃から人をからかうことがないようにクラスへの指導をお願いします。児童によっては、悪気なく「間違ってるよ！」「どうして間違うの？」などと聞いてしまう事例もあります。ことばの教室で頑張っていることも、本人と相談しながら必要に応じて伝えていただき、クラスの理解を深めていただけたら幸いです。発表時に聞き取りにくかった場合、先生がさりげなく復唱することで安心できる場合もあります。

## ○通級ではこんなことをしています

### 【口や舌の体操・脱力の練習】

発音で使う口や舌の筋肉を思い通りに動かしたり、力を抜いたりする練習をします

### 【聞き分ける力を付ける練習】

誤り音と正しい音を聞き分ける練習をして、自分の発音を聞けるように練習します

### 【音作りの練習】

段階的に、正しい音の出し方を学習し、練習します

### 【定着の練習】

学習した正しい発音を日常的に使えるよう、音読や会話で発音に意識を向ける練習をします



### <参考文献>

・わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法【山下有香里・武井良子・山口紘子】